

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 132	提案機関名 (社)神奈川県園芸協会(県花き園芸組合連合会)
要望問題名 バラ台木における根域の状態が切り花の生産性に及ぼす影響について	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 台木の違いによるバラの収穫本数や切り花品質については、品種間差が大きく、品種により最適な台木が異なることが県農業技術センターから報告されており、多くの品種で台木を用いた接ぎ木苗の有効性が確認されています。 そこで、バラの生産性と台木における根部の状態(深さ、根張りなど)の関係について検討をお願いしたい。併せて新しい優良台木の選定もお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 新たなかながわ特産品の開発		
対応の内容等	これまでにバラの新品種に適した接ぎ挿し用台木として、‘サムライ’を穂木にオドラータ、ナタールブライヤー及びノイバラを台木にして、それらの生産性を検討してきました。現在は、‘ゴールドラッシュ’を穂木にした試験を継続していますので、その中で栽培終了時に根部の状態を調査します。また、新台木の育成につきましても、選抜系統の生産性の検討の段階にあり、数年のうちに現地試験に出す予定です。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			